



かみひら小だより

学校教育目標「心豊かで強い意志を持ち
自ら学ぶ健康でたくましい子」の育成

学校ホームページは、上尾市 上平小 [検索](#) スマホからもどうぞ!

学校通信 特別号

令和 6 年 3 月 8 日

上尾市立上平小学校

発行責任者 校長 山田浩一



令和5年度 上尾市立上平小学校

学校評価の結果を公表いたします

校長 やまだ こういち 山田 浩一

◆ 卒業証書授与式を2週間後に控え、令和5年度もいよいよ大詰めを迎えました。本年度も新型コロナやインフルエンザなどの感染症対策の1年ではありましたが、子供たちの学びを止めず一人一人の成長という成果を上げ1年間の教育活動を締めくくることが出来ます。これもひとえに保護者の皆様、地域の皆様の本校へのご理解とご協力があったからであると、教職員一同感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

◆ 1年間の教育活動を振り返って評価を行い、次年度の更なる教育活動の充実を図るために『学校評価』を実施しています。この『学校評価』は、学校教育法等の法令に、その実施と結果の公表が義務づけられているものです。学校の教育活動に対して、教職員が自己評価を行い、その結果の説明責任を果たし、見通しを持ちながら、家庭や地域との連携関係を構築していくことを目的としています。

◆ 『学校評価』の構成は、次のようになっています。

①教職員による『自己評価』

学校の教職員自身が、実施してきた教育活動を自ら振り返って評価し、次年度への改善策を検討します。その際に、保護者や児童の意見を参考にするために、アンケートを実施します。12月にアンケートのご協力いただいたのは、このためです。アンケートの結果は、自己評価を行う際の、重要な要素として活用させていただきました。

②学校関係者評価委員会による『学校関係者評価』

保護者や地域の代表の方々で構成された学校関係者評価委員会において、『自己評価』の結果や改善策に妥当性があるか評価していただくものです。『自己評価』の客観性や透明性を担保するものとして位置づけられています。なお、保護者や地域の代表ということで、多くの学校と同様に上平小学校でも、学校運営協議会の委員の方々に、学校関係者評価委員も併せてお願いして、『学校関係者評価』を実施していただいています。

◆ 『学校評価』の内容は、次のようになっています。

○ 6つの『領域』に評価項目が分かれています。

○ 21の項目について評価しています。

○ 評価項目の■が、★になっている項目は、本年度の教育活動の重点項目です。

○ 評価は、A・B・C・Dの4段階で行っています。

○ 評価書の左側は『自己評価』で、右側が『学校関係者評価』の結果となっています。

○ 『学校関係者評価』の結果が『自己評価』と同じ場合は、『自己評価』が妥当であるとの評価で、『自己評価』と違う場合は、修正した方がいいという評価です。

◆ 本校の学校ホームページにも『学校評価』の結果を掲載していますが、改めて『学校だより特別号』としてお届けいたします。ぜひご一読いただき、来年度も本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

令和5年度 上尾市立上平小学校 学校評価書

評価基準 A (できている) B (どちらかといえはできている) C (どちらかといえはできていない) D (できていない)

★は重点項目

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	評価	○学校としての考え ▲課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
I 学校経営・ 学校教育目標	1	<p>■学校は、学校教育目標や目指す学校像の具現化に向かって学校（学年・学級）運営や学習指導、その他の教育活動の工夫改善に取り組んでいる。</p>	<p>◆安易な従前主義を排し、小さなことでも課題解決と改善を図るための検討、工夫に熱意・誠意・創意をもって真摯に、取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスと価値ある取組の実施 児童が主体の学習スタイルの構築 	B	<p>○学校生活の中で、児童を褒めたり、叱ったりすることは形に残ることがほとんどないため、学校の様子が伝わりにくい。児童の学校の様子を様々な手段で知らせていくことが大切。</p>	B	<p>・教育目標を達成するための学校運営、学習指導を行ったことが1年間大きなトラブルもなく過ごせた結果に出ていると思う。</p> <p>・今年度は創立150周年という節目であり、記念式典、行事等も通常開催となり、年間指導計画に基づいた教育活動を行っていたと評価する。</p> <p>・ICT化の推進や教科担当の取組など、質の高い学校教育を行っている。</p>
	2	<p>■学校は、学校教育目標の目指す児童像（進んで学ぶ子・思いやりのある子・責任を果たす子・たくましい子）に迫る成果をあげている。</p>	<p>◆常に学校教育目標・目指す学校像及び児童像教師像を念頭に置いた教育活動を展開し、児童の成長を見取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事等の計画におけるねらいの明確化 行事実施後の教師、児童の振り返り 	B	<p>○褒めた事に対する連絡をするような時間は取れないのが現状であると思う。</p> <p>▲教科担任で多くの教員が見えるようになると教科によって褒められる児童が変わり、バランスをとることもできると思われる。</p>	B	<p>・保護者は学校における児童の様子をすべて把握することは不可能です。学校行事や授業参観では断片的に知るだけです。したがって、学校は本来の教育目標を念頭に地道に学力の向上等を図り、子供たち一人一人のより良い成長に向けて努力することだと思ふ。保護者は自分の子供に好ましい変容が実感できたとき学校の教育活動に対して高く評価することになると思ふ。自信をもって全職員の一致協力のもと積極的に学校運営にあたってもらいたい。</p> <p>・多くの学校行事で学年ごと活躍や成長した姿を感じた。また、上平っ子タイムなどでも高学年の思いやりや責任感を養う活動を行っている。</p>
	3	<p>■学校は、教職員それぞれが能力を發揮し、各分掌（役割）や各学年が連携協力して、質の高い学校づくりを目指す体制を構築している。</p>	<p>◆教職員それぞれがチームワーク行動を發揮して、組織力の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア段階に応じたチームワーク行動の重点の実践 毎日のグループウェアでの指示伝達、連絡事項の確認、情報の共有、共通行動 一部教科担任制の実施 	A		A	<p>・教科担当ごとに役割分担がされ、教員の得意な能力を發揮し教育を行い、自信をもって教育活動を行うことにより、頼もしい、信頼される、頼られる教師となり、目指す教師像は達成されている。</p> <p>・保護者は家庭で子供とコミュニケーションをとり、学校での様子や出来事をうかがう機会を設け、教職員の想いや言葉が子供供いに伝わるとよいと思う。</p>
	4	<p>■学校は、教職員が児童のよい点を認め、ほめるとともに、いけないことは毅然と叱り、一人一人を伸ばすことを念頭に教育にあたっている。</p>	<p>◆教職員が連携して、児童一人一人のよい点を見つけ、ほめて伸ばす教育に取り組むとともに生徒指導・教育相談を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的な情報共有のための会議の確保 複教教員の協力体制による指導の実施 問題行動へのチームでの対応 いじめの早期発見と解消の継続的な支援 	B		A	<p>・児童に従来と異なる行動が見られたとき、例えば、初めて手を挙げたとき、あるいは友達に優しい態度を示したときなど、ためらわずに保護者に連絡してみたいか。</p>

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	評価	○学校としての考え ▲課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
II 学習指導（学力向上）	5	<p>■学校は、教職員研修を積極的に推進し、教職員の資質を高め、指導力及び業務遂行能力の向上を図っている。</p>	<p>◆文部科学省委嘱の研究発表会へ向け、小・中連携を生かした職員研修の充実に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員を交えた授業研究、協議の実践 ・研究発表会における検証 	B	<p>○保護者向けに研究授業のようなものを開いてみるのも方法の一つかと思う。</p> <p>○昨年度に比べ、各学年、指導方法を工夫し、基礎学力が定着してきていると考えられる。</p> <p>▲タブレットでの宿題や、保護者にも伝わるタブレットの活用を生み出す必要がある。</p>	B	<p>・教職員の研修に関して開示されていないため評価はできないところだが、その後の児童への学力向上、指導改善に生かされていると期待する。</p> <p>・研修の狙いは何か、現状の何をどう変えるために行うのか、研修の結果どのような成果が得られたのか、それらを総括する必要がある。指導効果が具体的に向上した例を保護者に公表してほしい。</p> <p>・参観をしていても教室内が落ち着いた学習状況であるため評価につながっていると考えられる。</p>
	6	<p>★学校は、指導方法を工夫改善し、児童の学習への関心・意欲・態度を高め、基礎学力の定着に努めている。</p>	<p>◆創意工夫を生かした教育指導の実施。基礎学力、学ぶための5つの力の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プランの策定 ・ICTの活用 ・長期休業日の活用 ・主体的で対話的な深い学びの授業実践 ・一部教科担任制・コース別学習の実践 	B	<p>○図書室を何度も利用し図書を貸しだしても結局読めていない現状があるように思える。</p> <p>▲読書パスポートへの記入を強制にするなど、目に見える形に残すなどの工夫が必要である。</p>	B	<p>・社会科の学習で校庭に溝を掘り、上平代用水を作った学習は楽しく工夫された教育活動だと大変評価します。</p> <p>・指導方法の工夫により基礎学力が向上した具体例を示してほしい。また、様々な学力検査の結果を公表し、さらなる取組に向けた方向性を打ち出すことが保護者の安心感・信頼感を増すことになると考えています。</p> <p>・「本を借りる心構え」など、児童に教えれば自分に合った本が借りられるのでは。</p>
	7	<p>★学校は、読書に親しむ児童が育つよう読書活動を推進し、充実させている。</p>	<p>◆学校図書館を活用する読書活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ ・学校図書館の環境整備 ・貸出の促進（週末読書） ・学校図書館支援員、図書ボランティアによる支援 	B	<p>○冊数にこだわらず、家庭にも啓発し、学校でも家庭でも大人が読む姿を見せるなどして読書環境を整えると良いと思われる。</p>	B	<p>・人気のある本の冊数を増やすことや、古くなり人気のない本を整理し、図書館の環境整備を充実させてほしい。</p> <p>・貸し出し冊数に対し、読むことがついて行っていないのではないかと思われる。上平小は読書活動を推進していることはとても伝わるので、教員・児童・家庭それぞれが、借りたその先の取組について一度見直すことは必要だと感じる。</p>
	8	<p>★学校は、英語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図れる児童が育つよう指導を充実させている。</p>	<p>◆学校全体で外国語活動に関わる研究を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関わる環境づくり ・外国語活動の研修、授業研究 ・ALTの活用と連携 ・English-day、Eタイム、E-caféの取組 ・小中連携を生かした外国語学習 	B		B	<p>・研究の成果もあり、上平小の児童は英語の授業に抵抗なく、慣れ親しみ楽しそうに授業を受けている様子である。研究は終了したが、今後はさらにステップアップした上平スタイルを期待したい。</p> <p>・ICTを活用し、児童に関心。意欲を持たせるような積極的な学習指導への取り組みを評価したい。</p> <p>・参観のたびにいつも複数のクラスが端末を使い授業を行っている。児童それぞれの使い方を見ていてもかなり操作に優れ使いこなしているのがわかる。</p>
	9	<p>★学校は、1人1台端末を活用し、児童の学習への関心・意欲・態度を高めるとともに、学びを充実させている。</p>	<p>◆学校全体で1人1台端末の活用を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の積極的な活用 ・ICT活用研修、授業研究 	B		B	<p>・保護者に「本日のタブレット学習」など周知しては。</p> <p>・タブレットを活用した授業展開により、学習内容の理解が進み、学習効果が向上した事例を保護者に発信してほしい。</p>

領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	評価	○学校としての考え ▲課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅲ 心の教育（規律ある態度の育成）	10	■学校は、しっかりあいさつができる児童が育つよう指導を充実させている。	◆児童があいさつをしっかりできるよう、児童の意識の向上と実践化を促す取組を充実する。 ・日々の指導 ・児童会、学級によるあいさつ運動 ・教員の立哨指導 ・地域の教育力を生かしたあいさつ運動	B	○学校全体の様子を伝えていく必要がある。 ▲自分から進んであいさつをするという点で、職員の評価が低くなり、あいさつをされたらきちんと返すという感覚から児童の評価が高くなる。ここに職員と児童の評価の差が出ているのではないか。学校全体の課題であると感じる。	B	・高学年から積極的に行うことで、低学年も覚えていくと思うので上級生に頑張ってもらいたい。 ・学校・家庭・地域一体となり、大人が気持ちよい挨拶を心がけていくしかないと思う。 ・自分から進んであいさつをする子になるように保護者の協力も必要で引き続き取り組みたい。
	11	■学校は、互いのよさや頑張りを認め合い、思いやりの心をもって生活できる児童が育つよう指導を充実させている。	◆呼び捨てをしないで、ていねいな優しい言葉遣いで学習や生活ができるよう指導を充実する。 ・日常指導 ・道徳科の時間 ・ほめる教育の推進 ・授業での実践 ・学級指導 ・教員の率先垂範	B	○思いやりの木やいいところ見つけなどの取り組みを継続して行っていきたい。	B	・我々大人が率先垂範、実行あるのみ。登下校中の上平小の児童はよく挨拶している。防犯パトロール中に感じています。 ・他者を思いやり、きまりを守れる児童に育つよう、今後もしっかりと指導していただきたい。 ・無言で清掃すれば、早く終わるという利点があることを知ってほしい。
	12	■学校は、約束やきまりを守り、けじめをもって学習したり生活したりできる児童が育つよう指導を充実させている。	◆3内容6項目12の規律ある態度の達成目標が身に付くよう重点的に指導する。 ・実態把握 ・日々の指導 ・講話朝会	B	○きまりやけじめは、守れたことを認め、褒め、守れない者を見逃さず指導することが大事だと思う。 ▲委員会の児童の役割にするのではなく、挨拶当番では、縦割り班や学級の持ち回りにするなど、児童を巻き込んで行うと良いと思われる。	B	・清掃に集中して丁寧という意味であると思うが、無言という表現に冷たさを感じ、互いに声を掛け協力し合って清掃するという部分もないような言葉に感じてしまう。 ・もう少し気軽にコミュニケーションをとりながらの清掃でも問題ないと思う。
	13	■学校は、無言でしっかり清掃に取り組める児童が育つよう指導を充実させている。	◆無言清掃で集中して学校をきれいにできるよう指導を充実する。 ・日常の巡回指導 ・振り返りの実施 ・放送による啓発	B	▲清掃が無言である必要があるかをもう一度検討すべきだと思う。	B	・しっかりと清掃する前提で会話を楽しみ、楽しい雰囲気できれいになればいいのではないかと。 ・児童の清掃活動も楽しいものにしたいものです。
領域	学校の自己評価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	評価	○学校としての考え ▲課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
Ⅳ 健康・安全・体力向上	14	■学校は、食物アレルギーへの対応や食に関する指導の取組を充実させている。	◆食物アレルギー事故防止の取組の徹底、規則正しい生活やバランスのとれた食事の大切さを理解させ、実践できるようにする指導を充実する。 ・アレルギー対応マニュアルの実践 ・食育の充実 ・早寝 早起き 朝ご飯啓発 ・学校ファームの活用	B	○健康や安全については、手紙やホームページ等での情報発信をしているため、職員の評価は高くなっていると考え。 ▲さわやかタイムや、運動会の内容については働き方改革の観点も考慮に入れて進めていかなければならないし、保護者の理解も必要である。	B	・給食試食会を各学年に年1回くらいで行ったらどうか。そのタイミングで保健面などの取り組みを伝えるなど。 ・学年、学校閉鎖、大きな事故や事件の報告がないことが、しっかりと取り組み、安全が確保できている結果だと思う。 ・コロナも感染率がまだまだ高く、予防に力を入れるように。
	15	■学校は、感染症等の予防や事故防止など、健康で安全に生活するための取組を充実させている。	◆感染症やけが、歯科保健、交通事故防止、防災に関わる児童の意識とスキルを高められるよう指導を充実する。 ・保健学習 ・安全点検 ・防災訓練 ・歯科保健の取組（フッ化物洗口） ・歯みがき大会への参加（5年生） ・不審者侵入対応研修、避難訓練 ・交通安全教室の毎年度実施	B	▲学校での取り組みや方針が保護者に伝わっていないのではないかと。それぞれの取組で、何を具体的にしているのか分かるように情報発信していく必要がある。	B	・体育の授業、さわやかタイム等の時間範囲内でできる運動をこれからも指導してほしい。 ・運動会縮小路線の前に運動会の意義は何か、何のために実施する体育的行事なのかを考える必要がある。保護者等、外部の方々を過剰に意識する必要はないと思う。あくまで、児童一人一人のより良い成長を目指し実施するものと考えます。
	16	■学校は、児童が運動に親しみ、技能や体力を向上させる取組を充実させている。	◆体育の授業や体育的活動の充実、積極的な外遊びの奨励などに取り組む。 ・さわやかタイム ・体力向上の推進 ・運動会、陸上競技大会、持久走大会 ・体育授業共通指導事項の徹底	B		B	

領域	学 校 の 自 己 評 価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	評価	○学校としての考え ▲課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
V 環境整備	17	<p>■学校は、安全・衛生・美化の観点から施設や校舎内外を整頓し、整備を進めている。</p>	<p>◆児童が安心して学べる安全で清潔で潤いのある教育環境の点検と整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検、臨時点検及び点検結果への対応 ・小破損修繕の実施 ・花壇の整備 ・市教育委員会との連携 	B	<p>○学校の老朽化が進んでいるため汚く見えることもあるが、古いなりにがんばって環境を整えていることを知ってもらった方がよい。</p> <p>○用務員さんの仕事など、学校側の取組を保護者に知ってもらうなどをしてよいのかなと思う。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・広い校内を用務員さんが頑張ってお仕事している様子。感謝したい。 ・校舎の老朽化に伴い、教職員ができることにも限界があると思われる。そのような中でも校舎内外、整えられていると感じる。 ・用務員さんの日々の仕事をもっと保護者に知ってもらうことは大切です。また、用務員さんから見た上平小の児童についてお聞きする機会を設けてみてはどうでしょうか。 ・たくさん作品が掲示しており、子供たちの学びを実感できる。
	18	<p>■学校は、教室や廊下などに適切な掲示を行い、教育環境を整備している。</p>	<p>◆季節や行事、学習内容・指導内容に合わせた作品の展示や掲示物の作成に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩りや構成の考慮 ・あるべき所に必要な掲示 ・埼玉県在来種の花壇づくり ・ネイチャーコーナー 	B	<p>▲トイレの床が材質によって汚れが落ちず、汚くなってしまうことがある。清掃方法について検討が必要であると思われる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開日に改善点や取組をパネルのようなものでお知らせしては。
領域	学 校 の 自 己 評 価				学校関係者評価		
	自己評価の評価規準	主な方策	評価	○学校としての考え ▲課題・改善点	評価	学校関係者評価委員の意見・提言	
VI 保護者・地域との連携	19	<p>■学校は、学校の方針や取組、児童の様子などが伝わるように積極的に保護者や地域に情報を提供している。</p>	<p>学校の方針や取組、教育活動の様子などが伝わるようにホームページや便り等をとおして、保護者や地域へ情報を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 ・学校便り等の発行 ・連絡メールの活用 ・動画配信 	B	<p>○各種たよりや手紙など、さくら連絡網や学校ホームページをもっと活用して広く保護者に周知する必要がある</p> <p>○学校応援団の活用の様子の発信を充実させる。</p> <p>▲授業以外で学校に必要なボランティアがあると思われる。町会長さんをお願いして地域の回覧板でお知らせすることで募集することができると思われる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は創立150周年事業ということで普段やらないことを経験できた1年だったと思う。 ・まだ、ネット（ホームページ）や手紙・連絡帳（紙書類）の両方を活用していかなくてはならないでしょうか。 ・学校だよりやホームページに写真付きで掲載されているが、誰でも閲覧できる反面、おそらく安全面での配慮も必要なため、不足に感じてしまうこともあるのではないかと。 ・ホームページに発信し、さくら連絡網にも発信をし保護者に閲覧してもらえるとよい。 ・現在の環境にあった取組を学校だけでなく、地域の力を借りて児童の成長を見守る活動をしていきたいと思う。 ・様々な原因が思い浮かびますが、中学校から不登校が増える現実、これを小学校から可能な何らかのサポートができないか考えてみたい。
	20	<p>■学校は、コミュニティ・スクールとして学校応援団（保護者や地域住民・関係団体等）の協力を生かして、学校運営や教育活動を充実させている。</p>	<p>◆保護者・地域の協力を仰ぎながら児童の登下校の安全確保や学習活動の充実、教育環境の整備に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会での熟議 ・PTA、おやじの会、学校応援団等との連携 ・学校応援団感謝動画の配信 	B		B	
	21	<p>■学校は、幼稚園及び保育所（園）並びに中学校、地域との連携を図る教育活動を推進している。</p>	<p>◆幼保小、小中連携の推進など、関係学校等と一体となった教育活動に積極的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒とのリモート交流 ・小中教職員間の交流 ・地域と連携を図る活動への参加 	B		B	